令和3年（2021年）10月6日
記　者　会　見　資　料
社　会　福　祉　課

社会的孤立状態にある方の支援に関する調査について

１　趣旨

近年、生きづらさを感じている子どもや社会的孤立状態にある若者が増えており、また、ひきこもりの長期化や高年齢化が進み「８０５０問題」として社会的な課題となっている。そこで、市内の現状を把握するための調査を実施し、ひきこもり状態にある方の市内の推計値やひきこもり状態となったきっかけ等、ひきこもり状態にある方の実態や各種支援の状況を捕捉し、子ども・若者がひきこもり状態になることを防ぐための施策や、ひきこもりの長期化を防ぐための適切な支援を検討するための基礎資料とするため実施するもの。

２　調査内容

一般市民を無作為抽出した「標本調査」と、支援者を対象とした「支援者調査」を実施する。各調査を組み合わせて分析し、今後の検討に必要な情報を抽出する。

	対 象 者	実施内容
標 本 調 査	一般市民　３，６００人 （１５歳から６４歳までの市民から無作為抽出）	「くらしと交流に関するアンケート」と題し、世帯の状況・仕事に関すること・外出に関すること・交流に関すること・悩みや相談に関することなどを調査する。
支援者調査	⑴ 民生委員・児童委員 ⑵ 地域包括支援センター ⑶ 障害者相談支援センター ⑷ 家庭児童相談員	今までに支援したことのあるひきこもり状態にある方について、その方の状況や福祉サービスの利用状況、支援の際の課題などを調査する。

３　調査時期

令和３年（２０２１年）１１月頃

４　その他

本調査は、社会的孤立の課題について調査・研究を行っている愛知教育大学准教授の川北稔氏に調査及び分析の協力を依頼し、共同で実施する。